

# 2006年5月ジャワ島中部地震

## (3) 被害状況など

### ■ 被害の状況

インドネシア社会省による被害状況(6月8日現在)

#### (1) 人的被害

死者: 5,716名  
 負傷者: 37,917名  
 避難民: 423,720名

#### (2) 物的被害

家屋倒壊: 126,326軒  
 家屋損壊: 392,414軒  
 (参考) 人的・物的被害とも、ジョグジャカルタ州南部のバントウル県周辺で被害が最大

(外務省ホームページより引用)



崩壊した建物(インドネシア気象物理庁提供)



崩壊した道路脇の民家(インドネシア気象物理庁提供)



崩壊した農家(アジア防災センター提供)



崩壊した農家(アジア防災センター提供)



崩壊した農家(アジア防災センター提供)



崩壊した家屋の壁のレンガ(アジア防災センター提供)



大きな被害のないジョグジャカルタ市内(アジア防災センター提供)



片づけをする住民(アジア防災センター提供)



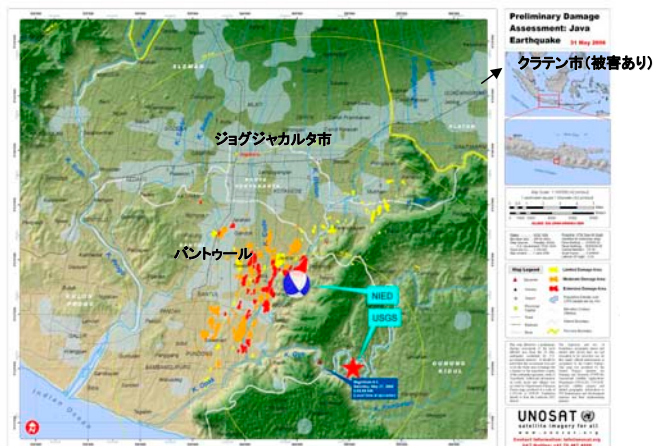
協力して家屋を解体する住民(アジア防災センター提供)



バントウル緊急医療センター(アジア防災センター提供)

### ■ 被害分布と震源位置

右の図はUNOSAT(国連衛星プロジェクト)によって衛星画像から推定された被害分布です。赤や黄色で塗られている部分が被害の大きかった地域です。我々がRealtime-JISNETの波形データから推定した震源は、被害が大きかったバントウル南東部のほぼ真下の深さ10kmに位置します(図中のNIED)。震源の浅い地震が直下で発生したことが今回のように、地震の規模に比べて大きな被害を引き起こした原因の一つと考えられます。比較のために、米国地質調査所による震源の位置も示します(図中のUSGS)。



### ■ 断層破壊過程モデル

右の図は八木勇治筑波大学助教授(防災科学技術研究所客員研究員)がグローバル地震観測網による遠地地震波形とRealtime-JISNETによる近地地震波形の両方を用いて求めた詳細な震源断層破壊過程のモデルです。

この解析によると、南西-北東方向の走向を持つ浅い横ずれ断層上で継続時間が30~40秒にも及ぶ破壊が発生したことになります。詳しく見ると、まず地震開始から約3秒後に断層の南西部分で大きな破壊が起こり、更に約10秒後に北東側で破壊が起こったことを示しています。破壊が断層上を北東方向に進行したために、北西に位置するジョグジャカルタ市内よりも北東の方向で被害が大きくなったと解釈できます。

